

イワクラサミット in 宮崎 ドキュメント

イワクラ(磐座)学会
理事 柳原輝明

2005年7月16日快晴の伊丹空港を飛び立った。1時間の快適な空の旅を楽しみ、いよいよ宮崎空港着陸である。着陸態勢に入ってからなかなか着陸しない。どうやら空港周辺の霧のため着陸できないらしい。

霧の晴れるまで旋回すること30分、ようやく再び着陸態勢に入ったが滑走路近くになって視界が利かず再度上昇。之を繰り返す事3度、ついに海からの着陸を諦めて山側からの着陸を試みる。何とか視界が確保されようやく着陸である。思わず機内に拍手が沸きあがった。宮崎空港には約1時間遅れ。宮崎サミット行きの臨時バスはとっくに出た後である。次の臨時バスまで1時間30分の待ち。やむ得ず路線バスを乗り継いで西都市まで行くことにした。

11時、西都原博物館に到着。高い丘の上にそびえる西都原博物館はなかなかの威容を示している。玄関を入るとホールがあり、先着の会員の何人かが座っておられた。その奥のサミット会場ではイワクラサミットゴ宮崎の実行委員会の人たちが会場設置におおわらわである。サミット開始までまだ2時間程度ある。3階の展望台に上がって眺望を楽しむ事にした。はるかかなたまでタバコ畑が広がり、古墳の小さな小山が点在、遠くには高千穂の峯などが遠望できるすばらしい景色である。イ

ワクラ(磐座)学会創立後の第1回サミットを開催する場所としてこれほどふさわしい場所はないのではないかと感じた。

昼食後会場に戻ると、臨時バスの第2便の到着が遅れたため開始を10分程度遅らせるといふ案内があった。第2便の人たちが到着してよいよイワクラサミットゴ宮崎の開始である。

会長挨拶の後、宮崎県立西都原考古博物館主幹北郷泰道氏による基調講演が始まった。本野原の配石遺構の調査結果の紹介に始まり利器としての石や祈りの対象としての石など石の役割について述べられた。また、南九州の原生的精神世界として豊かな自然環境により食料に困らない事から、縄文時代の遺跡から発掘される土偶がこの南九州では発掘されていないなど興味のある内容であった。その他、西都原の古墳群についての興味深い内容など約1時間にわたって講演された。

10分の休憩の後写真家須田郡司

氏と歴史作家の鈴木旭氏によるトークショー「世界のイワクラ イワクラの世界」と題して、須田郡司氏の写真を前に二人の岩にまつわる興味深い話が展開された。1時間30分があつという間にすぎた感があり、巨石好きの人たちには堪えられない至福の時間であつたであろう。



16時10分、二人のトークショーが終わり10分の休憩後第1回イワクラ(磐座)学会総会が開かれた。会長の挨拶の後事務局より会の成立

が告げられ、続いて昨年度の活動報告、会員数の推移、会計報告がなされた。その後、監査役足摺縄文文化研究会富田無事生氏から会計監査の結果を適正とみなす旨の報告があった。(これらの内容は事務局ニュースを参照してください。)

第二日目

9時30分、二日目の開始である。本日は、会員の研究発表の日であり、午前3人午後3人の発表予定である。それぞれの発表内容は別項を参照。

17時、第1日目のサミットは終了した。

全員バスに乗り本日の宿舎である西都温泉に向う。到着後温泉に入る人、周辺を散歩する人、仲間と談笑する人、それぞれの過ごし方で18時30分からの懇親会を待った。

18時30分より今回のイワクラサミットで宮崎の立役者谷口実智代さんの司会で懇親会が始まった。参加者役40名、二列のテーブルにぎつしりと並んでの懇親会である。食事をしながらの自己紹介、会員以外の参加もあり、新しい顔ぶれに興味がいけない。

懇親会終了後は思い思いに温泉に入り、その後、各部屋ごとにイワクラ談義に花を咲かせるグループあり、疲れて休む人あり、様々であった。

すべての研究発表後、イワクラ(磐座)学会会長より総評があり、その内容は、イワクラ(磐座)学会総評を参照。

16時30分、研究発表は終了した。夜の交流会まで時間がある、せっかくであるので西都原考古博物館を見学する事にした。

地下に降りる長いスロープを降りると展示室に到着。縄文時代から古墳時代までの展示が見事になされており見ごたえのある展示内容であった。

19時、地元婦人会による郷土料理と銀鏡神楽の夜ということで交流会が開かれた。地元の婦人会の方たちの温かいおもてなしに一同大感激

で、素朴な中に豊かな味覚におおいに楽しませられた。銀鏡神楽は国の無形文化財の指定を受けている由緒正しい神楽で、総勢20名近い人たちがただ我々イワクラ(磐座)学会のためだけに神楽を披露していただいた。暗闇のなかで、一条の明かりだけに

照らされて奉納される神楽は幻想的で素晴らしいものであった。一言葉もなく時間の経つのも忘れて見入っていた事が印象的であった。このような素晴らしい神楽が見られるのは地元サミット実行委員会の努力の賜物であり、また、イワクラに心寄

せるものに対して宮崎の神々の贈り物であるかのように感じた。

ここに西都事務局の渡辺悦子様はじめ会員の皆様に感謝申し上げます。また、銀鏡神楽の皆様にも心より感謝申し上げます。



第三日目

8時、今日は最終日。みんなが心待ちにしていた宮崎の巨石ツアーである。西都温泉を後にして一路矢岳高原に向う。途中までは高速道路でえびのインターを降りると山道にかかる。バスが通れるのかと思うほどの細い道をバスはらくらくと登っていく。バスの運転手の技量に脱帽。

10時、矢岳高原キャンプ場に到着。そこから5分程度歩いて展望台へ。霧島屋久国立公園の霧島連山と九州山地に囲まれた小林盆地の大パノラマである。一方展望台のそこかしこに巨石が露頭しているが、一般の人は見向きもしないのだろう、何の看板も説明もされていない。当イワクラ(磐座)学会の会員は、景色はそこそこにこれら巨石に興味津々、手でさすったり写真を撮ったりしている。

そこからバスですさらに10分程度行き、徒歩で山中に分け入る。地元研究クラブの人たちの案内で笠石に向う。途中いくつかの明らかにイワクラと思われる巨石に出会う。笠石

は4m程度の巨石で、その姿かたちはやはり尋常でない雰囲気がある。ただ周りが十分整備されていないため、またそこまでのルートが整備されていないため地元研究会の方たちは



の伝承が途切れたとき、これらイワクラは自然に埋没し、忘れ去られてしまう危惧を抱いた。帰路、古代の祭り場であったとされるイワクラに立ち寄った。この場も十分整備されていないためただの自然の岩にしか見えないのが残念である。今後の地元研究会の活躍に期待したいところである。

12時30分、矢岳高原で少しトラブルがあり、昼食の会場には遅れたが、えびの市の西川北区の公民館に到着。ここでも地元の皆様の心づくしの手料理に一同大感激の体であった。西川北区の区長白坂重之様はじめ区の皆様に心から感謝いたします。



を降りて土産物屋の狭い通路を抜けるとそれは悠然とそびえていた。川に突き出た半島状の岩の先端に高さ7mほど、姿かたちは男根そのもの、そのあまりのリアルさに皆驚きの声を上げた。写真をとる人、それをバックに写真に納まる人様々である。



ここでみんなで男根をバックに記念撮影。ちよつとみんな照れくさそうに見えるのは気のせいだろうか。

13時30分、昼食後、バスにて小林市の陰陽石の視察である。バス



14時30、さらにバスに乗る事20分。高崎町の東霧島神社に到着。イザナミノミコトが剣で三段に切つたと伝えられる「神石」があり、その見事な切断面に驚きを禁じえなかつた。このような切断面を持つイワクラは奈良の柳生でも見られ、その切断面の美しさから神として崇められ今に至っているのだろう。丘の頂上にある社殿に向う参道は、鬼が一夜にしてつくつたと伝えられる「鬼岩階段」で、その威容はなかなかのものである。1m前後の自然石をうまく積み上げ階段状の参道となっている。

ここで発見。この階段を見ていて、奈良県山添村の鍋倉はかつて神野山頂上に至る階段状の参道であり、それが長い年月の間に今のような状態になったといふかねてよりの持論の信憑性が高まったという感があった。

16時、東霧島神社参拝が終わった時点で4時を回っていた。もう一つの視察場所である都城市の母智丘神社にいけるかどうかを実行委員会

で協議された。帰りの船の時間、飛行機の時間等から母智丘神社に行けばそれらの時間に合わなくなる危険性があり、当日も泊まる人や帰りの便にゆとりのある人以外は、やむえず母智丘神社行きを断念した。

イワクラ(磐崖)学会発足後第1回のイワクラサミットで宮崎は、地元宮崎の猫バス堂の谷口実智代さまを始めスタッフの皆様の大変な努力の結果、大成功に終わったといえるであろう。初日の基調講演とイワクラのトークショー、二日目の会員の熱心な研究発表、そして日常我々がなかなか経験出来ない経験をさせていただいた神楽や郷土料理など、非常に盛りだくさんでかつ楽しく、有意義なサミットであった。